

日本のカトリック 目指すものは

ローマ法王教皇ベネディクト16世の突然の退位表明で注目を集めるカトリックは、世界で11億人を超える信徒を擁する巨大宗教。たゞ、日本では禁教時代が長く続いたこともあり、解禁から140年たった今も、信徒は約44万人にとどまる。日本のカトリックは何を目指すのか。日本司教協議会(司教団)のトップでもある池長潤・大阪大司教(75)に聞いた。(石塚直人)

日本のキリスト教は1549年、イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルが伝えたのが始まり。以来多くの宣教師が来日して教会や学校を建てた。1614年には、大名55人を含む65万人の信徒がいたという。しかし豊臣政権末期から徳川時代にかけて弾圧が進み、信徒は表向き姿を消した。幕末に鎖国令が解除された後、長崎・大浦天主堂で折っていたフランス人神父を十数人が訪れ、信徒であることを告白した「潜伏キリシタン発見」(1865年)は西欧世界を驚かせた。「キリスト教がローマの国教となった後、日本ほど殉教者が多かった国はありません。長崎で最初に殉教した26人は聖人と

社会の悲惨に向き合う

池長 潤・大阪大司教に聞く



日本での宣教について語る池長潤・カトリック大阪大司教(大阪市中中央区の大阪カテドラル聖マリア大聖堂で) 守屋由子撮影

「日本人は葬式はお寺で、結婚式は教会で、と特定の宗教にこだわらねえ。汎神論の思想が広くあり、宗教に御利益を求めがち。仏教徒を装いながら250年以上も信仰を守り抜いた潜伏キリシタンは、多くの日本

人にとって自分たちとかけ離れた、違和感をもたらす存在だったと思います」作家の遠藤周作が述べた、「神」をめぐる感性の違いもある。罪を罰する「父なる神」を強調するのが西洋なら、日本人が求めるのは、罪人も限りなく許す「母なる神」だという。「私自身、日本人の感性に合った宣教が必要と考え、東京・聖イグナチオ教会の改築の際、天に向かうゴシック建築でなく、低い円筒形にしました。訪

れる人を温かく迎える神を表現したのです」。阪神大震災後に建てた神戸中央教会の建築にも、同じ思いが込められている。そうした新しい動きを後押ししたのが1962年に始まり、教会に現代化をもたらした第2バチカン公会議だ。以来、ラテン語だったミサが日本語となり、聖職者の権威に従うだけだった信徒の地位も向上した。74年には「正義と平和協議会」が発足し、司教団も平和や原発について活発に発言している。た

だ、保守的な一部信徒からの反発も根強い。「キリストは、弱者の苦しみに無関心な人を厳しく戒められました。信仰には、祈りとともに、社会の悲惨や不正に向き合う行動が求められます」全国に約800あるカトリックの学校がエリート育成中心とみられがちな現状についても、「神が喜ばれる人間を育てるのが基本」とし、教職員向けのテキストを作って研修に力を入れている。

大阪大司教区(大阪、兵庫、和歌山)は、社会問題とのかかわりが特に深い。外国人労働者や野宿者、障害者、在日韓国・朝鮮人などの人権を守るグループがいくつも組織され、プロテスタントとの共同も広がった。日本のカトリックは戦前から戦中にかけて、「天皇は神」とする国家体制を受け入れて生き延びた。80年代から自己批判の動きが強まり、95年に司教団が謝罪のメッセージを発表した。それだけに、「従軍慰安婦」見直しなどの動きには危機感を隠さない。昨夏、37年に中国で日本軍のため殉教したシュラーベン司教の記念式典に招待する手紙が司教の母国オランダから寄せられると、軍の蛮行を謝罪し故人をたたえる返書を送った。手紙によると、司教は、女子修道院に逃げ込んだ中国人女性の中から200人を慰安婦として差し出すよう求められたのを拒み、焼き殺されたという。「たとえ不名誉なことでも事実は率直に認める。南京虐殺も従軍慰安婦も多くの体験者、目撃者がおり、あったこと自体は否定できません。それを認めるのは自虐などではなく、人間としての資格にかかわる問題です。他者の人格を徹底して大切にすることが、キリストの教えの核心にあるからです」

いけなが じゅん 1937年神戸市生まれ。父は南蛮美術収集家の孟氏。六甲中・高在学中に洗礼を受け、上智大文学部、神学部を卒業して司祭に。イエズス会日本管区長などを経て97年から大阪大司教。2011年から日本カトリック司教協議会会長。

日本のカトリックの歴史

1549	ザビエルらが鹿児島に到着、宣教を始める
82	天正遣欧少年使節が長崎を出発(85年にローマ法王に謁見、90年帰国)
87	豊臣秀吉が禁教令。当初は徹底しなかった
97	長崎で26人が十字架にかけられ、殉教
1637	島原・天草の乱。キリシタンが反乱の主力
1857	鎖国令が解除され、宣教師も入国する
65	潜伏キリシタンが名乗り出る
67	長崎の信徒数千人に拷問・流罪。外国から非難
73	キリスト教禁制を公式に廃止
1927	早坂久之助神父が日本人初の司教(長崎教区長)
60	土井辰雄・東京大司教が日本人初の枢機卿に
73	国内16教区長の全員が日本人となる
95	司教団がメッセージ「平和への決意」を発表

第2バチカン公会議 ローマ法王ヨハネ23世が世界の司教ら2400人余を集め、3年余にわたって開かれた。教会を現代に合わせて刷新すること、貧しく苦しんでいる人々に寄り添うこと、他宗教の中にも真理を認めて尊重することなどを打ち出した。